

「わが町の読書グループ」

～北薩支部 出水市～

□読書ボランティアグループ「虹色のゆめ」

「虹色のゆめ」は「全ての子どもに本を親しんでもらう機会を増やそう」と、「子ども読書年」の平成12年4月に発足しました。絵本・紙芝居等の読み聞かせを中心としたおはなしボランティアと、高尾野図書館を拠点に読み聞かせ会をより楽しくするための手作り制作ボランティア活動もしています。市の「おはなし玉手箱（出前読み聞かせ会）」「ブックスタート」「セカンドブック」のほか、小学校や中学校、保育所・こども園などでも読み聞かせを行っています。子供だけでなく大人の方にも楽しんでいただくため、読み聞かせ以外にわらべうた、指遊び、郷土に伝わる物語の手作り紙芝居（方言で演じます）、人形劇、一人芝居、エプロンシアターなど、バラエティに富んだプログラムを用意しています。子供たちと交わり、お話を楽しむ顔に出会えることが何よりの喜びです。子供・保護者をはじめ、多くの方に読み聞かせの大切さを伝えていきたいと思っております。

おはなし玉手箱 R5.6.17（土）15人参加

梅雨の時期にあわせ傘で会場を演出。「あめふりくまのこ（パネルシアター）」「おじさんのかさ（大型絵本）」等の実演



児童クラブでの読み聞かせ（夏休み）



□おすすめ本の一冊

- ・書名 てぶくろ ウクライナ民話
- ・著者 エウゲーニー・M・ラチョフ（絵） うちだりさこ（訳）
- ・出版社 福音館書店

2022年に開始されたロシアによるウクライナ侵攻。いまだに、解決の方向がみえないままです。このお話のキツネは、小さいねずみやうさぎにいじわるなどしません。おかみも、かえるを食べたりはしません。最後の、大きなクマもほかの動物を追い出したりせず、みんな仲良く一つのでぶくろに入ります。

このお話には、「みんな仲良く暮らそうよ。」という、ウクライナの人々の願いが込められているように思うのです。